敬老の日特集号

広報
向日市

No. 128　昭和50年9月
■ 発行　京都府向日市役所（向日市寺戸町中野20）
■ 編集　広報広聴課
■ 電話　075（931）1111

お年寄りのご意見拝聴

市長を囲んで座談会

左から秋田さん，長谷川さん，渡辺さん，杉原さん，民秋市長，生嶋室長，小林さん，中山さん

――本日は、みなさんが日頃、考えておられることをお聞かせ下さい。

杉原　なにわともあれ、老人福祉センターを一刻も早く建ててほしいですネ。

小林　私も同感です。いといの家はあるが、規則や制限がありましてね。なかなか思うように使えません

渡辺　老人がいつでも気楽に集まれる場をネ。

中山　私は老人福祉センターの建設は大変結構ですが、その内容について十分考えていただきたいと思います。それは人が寄って来るような施策をやるということです。たとえば、専門の指導員を雇って老人の興味をひくような計画をたててもらうとか。

秋田　確かに、老人クラブでも人が寄って来ないのが問題ですね。容易なことでは、お年寄りは集まってきませんからネ。

小林　私のクラブでも毎月例会をやっていますが、クラブの運営が非常にむつかしい。次の例会には何をやろうか、どうしたらみんなが集まってくれるか、頭痛のタネですわ。

市長　確かに、老人クラブの運営はむつかしいと思います。とかくお年寄りは孤独になりがちで、気むづかしいところがありますからね。しかし、それでいてだれもが、気軽に話ができ心の通じあう友だちを求めているのですから。

――教育委員会では、高齢者教室を開講していますが各人の趣味も違いますしみなさん方に喜んでもらえるのは何か、ということでなかなかむつかしいらしいですよ。

杉原　高齢者教室に申込む人は、何でも身につけてやろうという方なんですね。別にお金はいらないし、勉強になるのやから、みんな寄せてもろうたらよいのやけどなあ！（笑い）

小林　申込む人は、よっぽど意欲のある方ですな。

長谷川　今現在、老人クラブでは、みんなが喜ぶようなことをせなあかん。いやな事は教えようたって覚えやせん。年がいってんのに、もうのんびりさしてほしいというのが大方の傾向やと思います。そやから、旅行とかレクレーションなどには相当の人が集まりますがネ。むつかしいことはかなんのとちがいますか。

――そうしましたら、学習的なものより趣味の集りですネ。

杉原　そうです。趣味により生きがいを見い出すこと。旅行は毎日行くわけにいかない。そうすると、日々の生活の中に生きがいを見い出していかなければならないし。つまり、老人には孤独の淋しさを感じている人が多いのです。人には仲間づくりが必要で、仲間と一緒に話し合える雰囲気づくりも老人クラブの役目やと思っています。

市長　クラブの運営のしかたについては色々あると思いますが、福祉センターは、できるだけみなさんに利用されるようなものにしていかなければなりません。そのためにも、みなさんのご意見も聞いて、できるだけ早い時期に実現できるよう努力さしてもらいます。

ぜひ老人福祉施設を！

若い人と話す機会も

――次にみなさんの周囲の若い人達に望みたいことがありましたらお願いします。

杉原　私は若い人達からの老人観をお聞きしたいですね。近頃は、おじいちゃん、おばあちゃんと言ってくれるのは五年生ぐらいまで、中学生にもなると、しんきくさいなど老人を見る目が変ってくる。青年になるとどないになって行くかと思うと心配ですね。

渡辺　老人はうるさい点があるかと思いますけど、若い人も三十年ほどしたら年寄りになるんです。言葉だけでもていねいにしてほしいと思います。今の人は年寄りに対して非常に冷たい感じですね。

長谷川　今の子供は昔の子供と違って義理人情が薄れていますナ。それがために年寄りがうるさくなってるというようなことやと思います。やはり子供はきびしく育てるべきです。子供が可愛いばっきりで、何してても黙っている親ではあきまへん、家庭的な指導ということが親の使命ですな

秋田　今の若い人の考えは変化がきついです。十年違うとコロッと考えが変りますナ。私はごく悪いことをしなかったら無関心でいます。それより、欲望を満たしてやろうと色々考えます

年一回ぐらい一緒に旅行に行ったり、家庭を楽しいものにするため気をつけてます。まあ、若い人というのは家庭が根本になって性格があらわれてきますからなア

中山　子供より孫が問題です。相当の年令の差があるし世相もそうなんですが自分のことだけで、年よりのことなど考える余裕が無いのが現状です。受験勉強も大切ですが、学校では学問に限らず家庭教育を含めて教育すべきだと常に考えています。自分さえ良ければという考えは、なんとか是正しなければいけないんじゃありませんか？

小林　私は年寄りに愛情を持ってほしい、今の日本の子供は年寄りに愛情を持ってませんナ、じじむさいとか、うるさいという感じです。もう少し年寄りは弱い者であるということを頭においてほしいですネ。

市長　ただ今、色々と若い世代の人達に対する希望やご意見がありましたが、確かに社会のために貢献されたお年寄りに対しては、いたわりと愛情の心をもっていただきたいというのが共通したご意見でございます。たとえば、市電、市バスの無料切符を出したとしても、お年寄りがツリカワにつかまっていなければならないのでは、老人福祉にはほど遠いものです。

このためには、学校教育家庭教育をふまえて市民全体の問題として老人福祉を考えて行く必要があります。

私ともども努力したいと思います。

――みなさんのご意見、ご希望もまだまだつきないと思いますが、このへんで一応お聞きにしたいと思います。これを機会に再びとうした集いを持ちたいと思います。

出席者

▽秋田規矩次さん　上植野町西小路
▽小林正雄さん　上植野町南開
▽杉原龍太郎さん　森本町藪路
▽中山新一郎さん　物集女町中条
▽長谷川幸三郎さん　寺戸町東田中瀬
▽渡辺利一郎さん　鶏冠井町楓畑
▽民秋市長
（五十音順）

"若さを保つ秘けつ10か条"

一、歳を知っていて意識しないこと――意識すると老け込みます。

二、「必らず長生きをするんだ！」と、いつも考えること――長生きそのものを、最大の生きがいにしてもよいわけです。

三、毎日の生活行動のすべてを、計画的に行うよう努めること――運動も調子がよいからと、予定を超えてしないことです。

四、身体をつねに動かす意欲を持ち続けること――歩けなかったら立っているだけでもよいのです。

五、できるだけ種類の違った食物を、必要なだけ食べること――一般に、腹八分目といっても満腹感は人によって違いますからめやすにはなりません。

六、効率のよい睡眠をとること――高齢になるに従って、睡眠時間以外に、身体を楽にして休む時間が必要になっていきます

七、排せつを順調にすること――尿や便などの老廃物をはじめ、汗線毛髪などの排せつも、活発にしましょう。

八、環境に適応する能力を失わないようにすること――若い頃なら暑さ寒さやその他の環境の変化に身体を適応させる能力が高いもの。老化は、この適応能力まで減退させます。

九、さまざまな若い人に数多く接して、談話や議論を興わせること――気持の若がえりをはかりましょう。

十、健康診断を定期的に受けること――身体の異常や疾病は、必ずしも自覚できないものです。お医者さんの診断を受けることを怠っていると、ときには、とりかえしのつかないことになることがあります。

（日本体育協会発行の国民スポーツパンフレット「健康へのおさそい」から抜粋）